

令和元年度 第3回仙台市都市計画協議会 議事概要

日 時 令和2年3月24日(火) 14:00~15:00  
会 場 本庁舎2階第一委員会室

議 題 仙台市都市計画マスタープランの策定について  
【市民参画の実施概要、都市づくりの視点、構成イメージ等】

配付資料 資 料 1 次期仙台市都市計画マスタープラン策定に係る市民参画の実施概要  
資 料 2 都市づくりの視点等(案)  
資 料 3 次期仙台市都市計画マスタープランの構成イメージ(案)  
資 料 4 まちづくりへの展開のイメージ(たたき台)  
参考資料1 仙台市都市計画マスタープラン策定に係る市民参画実施結果

【主な意見等】

資料4 まちづくりへの展開のイメージ(たたき台)

- ・都市づくりの目標像(案)を「東北を牽引して支える“新たな杜の都”の都市づくり」としているが、仙台市のまちづくりが東北を牽引して支えるというところにイメージが結びつかない。
- ・新総合計画の理念に「"The Greenest City" SENDAI」が入る予定となっている。都市づくりの目標像に新総合計画の理念がもう少し反映されてもいいのではないか。
- ・都市づくりの視点がまずあり、それから都市づくりの基本方向があり、そしてさらにまちづくりへの展開という3層構造になっていることから複雑になっている。部門別の施策があり、それを重点的な取組として都心でまとめるとういう形になり、「働く」だけでなく、「学ぶ」、「住む」の視点でまとめているとすれば、比較的わかりやすくなるのではないか。
- ・回遊例などを示すことによりイメージが湧きやすくなり、実際にどこのエリアに重点的に力を入れる必要があるのかもわかるようになるのではないか。
- ・都心の再構築というのは、非常に重要なポイントである。
- ・「鉄道を基軸とした持続可能な都市づくり」を掲げているが、半分程度の地域は鉄道の恩恵から外れている。外れている地域については、新しい交通網で高齢者の足を守るようなシステムづくりを考えていただきたい。
- ・鉄道で補い切れないところを自動運転技術などの先端技術でカバーするような未来像があってもいいのではないか。

- ・「住む」の都心が空白になっている。都心居住などのまちなかの居住も重要なポイントになるのではないかな。
- ・「住む」というキーワードがあるが、「暮らす」ということを示しておいたほうがいいのではないかな。
- ・今のストックを使いながらできるところでチャレンジしていくといった内容が必要であり、今あるストックをうまく生かし、ちょっと自由に使っていきながら、新しい使い方を模索するような取り組みがあってもいいのではないかな。
- ・コンパクトシティにするという方向性は間違いない。一方で、郊外地域について、次の10年間で人口減少が大きく進む、空き家が増えると推計されるのであれば、郊外地域のあり方について重点的な取組に準じて書くべきではないかな。
- ・都市計画区域外と市街化調整区域の違いが大きい。市街化調整区域では既存集落の維持が難しくなっている地域もある。新しい都市マスの中で、その部分を考えてもらえればと思う。